第 6 回日本精神科医学会学術大会において災害精神医学の樹立について講演しました（2017/10/12-13）

テーマ：災害精神医学
場所：広島国際会議場（広島県広島市）

10 月 12 日(木)～10 月 13 日(金)の２日間、広島国際会議場において第６回日本精神科医学会学術大会（主催：日本精神科病院協会）が開催され、当研究所の富田博秋教授（災害医学研究部門 災害精神医学分野）が「エビデンスに基づく災害精神医学の樹立に向けて～過去の大災害の教訓を活かして精神科医は如何に災害に備えるべきか～」と題した教育講演を行いました。

この学会は日本精神科病院協会 1,200 余会員病院に勤務する精神科医、および、精神科医療に従事する全職種が参加する年１回の全国大会であり、今学会のテーマは「多様化する精神科医療～当事者と治療者、医療、介護、福祉、共存共栄の‘かたち’～」でした。

この教育講演では、東日本大震災以降 6 年半に渡って東北大学が被災地域で行って来ている疫学調査や防災に関わる学際的な調査研究の成果も含め、これまでの知見に基づいて、精神科医療機関が如何に災害に備えるべきか、災害後急性期や中・長期の被災住民のこころのケアのあり方を如何により有効なものにしていくべきか、また、災害精神医学を如何に樹立していくか等について、これまでの取り組みの紹介を行い、意見交換がなされました。日本精神科病院協会とは、東日本大震災により精神科病院が深刻な被災を受け、その救援や復旧の過程において今後の課題が多く残されたことを踏まえて、震災前どのような災害に備え、震災からどのような教訓を得たかについての被災３県の精神科医療機関対象の調査を行ってきており、その成果についても共有、検討が行われました。

講演時の様子

災害への備えや災害後のこころのケアの重要性については認識が広がってきているものの、エビデンスに基づいた、より有効な防災や災害対応を可能にするための体制づくりは今後の重要な課題です。そのためには、起きた災害に関する情報を集積、分析し、エビデンスを抽出し体系化する災害科学を発展させる必要があります。

今後、学会の皆様との情報・認識の共有、検討を更に進めさせて頂ければと思います。

文責：富田　博秋（災害医学研究部門）